

学 年	教科等	単元名	日 時
第 5 学年	社会科	自動車産業にかかわる人々	令和 5 年 10 月 26 日 (木) 6 校時
研究内容 1 の手立て	【学習したことを自分たちの生活や社会と結び付けるための手立て】 本単元では、トヨタ初の自動車と現在の自動車を比較させ、自動車産業に対する問いをもつことができるようにする。そして、自動車産業についてこれから学習していくことを自分たちの生活にどのように生かしたいかという思いを記述させることで、問題を自分事として捉え、自動車産業と自分たちの生活を結び付けながら学習することができるようにする。 本時では、単元を貫く学習問題の解決に向けて、自動車産業に関する本や既習事項の資料等から必要な情報を集め、根拠を明確にしたうえでこれからの自動車づくりで特に大切なことについて話し合わせることで、これからの自動車産業の発展について環境への配慮や安全性等の観点から考えることができるようにする。終末に、将来どのような車に乗りたいかを再度記述させることで、学習したことを自分たちの生活と結び付けて考えることができるようにする。		
研究内容 2 の手立て	【学び方を次の学習に生かすためのふりかえりの在り方】 本単元では、単元をとおして使用する学習プリントに、学習方法や感想を適宜記述させる。単元の終末に個人や全体で学び方を見直す活動を設定することで、様々な学び方によって理解が深まることを実感できるようにする。 本時では、将来どのような車に乗りたいかを単元のはじめの考えと比較し、変化の理由を考えさせることで、獲得した学び方のよさに気付き、次の学習にも生かしたいという思いをもつことができるようにする。		

研究内容 | 【学習したことを自分たちの生活や社会と結び付けるための手立て】

この前の学習で車の死亡事故が多いって言っていたよね。事故が起きないように安全性能の高い車が開発されていたよ。



自動車は二酸化炭素の排出量が多かったよね。地球温暖化にも影響するから、これからは環境のことも考えた自動車づくりが大切だと思うな。

これからの自動車づくりで大切なことについて考えを広げた後に、再度将来乗りたい車について記述させることで、学習したことを自分たちの生活と結び付けて環境への配慮や安全性等の観点からも考えることができるようにした。

将来は安全で環境にもやさしい車に乗りたいです。理由は、事故にも遭いたくないし、環境のことも大切だと思うからです。

初めは可愛かったり瞬間移動できる車に乗りたがりと思っていたけど、今は環境や安全の方が大切だと思う。

環境に優しく、どんな人でも手が届き乗れる安全性の高い車
はじめに乗りたかった車も乗りたいですが、誰でも乗れる車に乗りたい。

環境にもよく、安心して乗れるような車です。理由は、安心して乗れる車だったらそんなに事故する確率がないし、僕的にも安心だから。

「はじめと今の考えを比べる」
環境のことを考えないと大人の時に良い生活ができないから環境が良くないといけない。そして安全面は安全じゃないと僕が買う気にならないです。

これまでに学習したことを基に根拠を明確にして話し合う姿

研究内容2 【学び方を次の学習に生かすためのふりかえりの在り方】



運輸部門における二酸化炭素排出量のグラフを見ると、自家用自動車は4割以上だったな。だから、環境のことも考えて車を選ぶことが大切だな。



ぼくが将来乗りたい車は、はじめはカッコいい車だったけれど、安心・安全で環境に優しい車に変わりました。それは、いくら安全でも、環境に悪かったら将来車をつくり続けることができなくなると思ったからです。

グループで話し合ったことで、他の考え方を知ることや大切なことをまとめていくことができました。

学び方 クループの中で意見を出し合えてた
 さんのことがわかったので、新しい意見も
 出て「じゃあ、〇〇しよう」などと話し合
 えたので良かったです。

今日の学び方では、グループの人と話し合い車をつくるうえで何が大切かということがわかったのいいと思いました。
環境に優しい車もグループの仲間と話して大切だなと思いました。

獲得した学び方のよさに気付いた発言や記述

- 導入の段階において、学習したことを根拠にしている発言とそうでない発言を比較させ、どちらの方がより説得力があるかを問い、根拠を明確にするという本時の学習の見通しをもたせたことで、自動車産業に関する本や既習事項の資料等から、根拠をもって自分の考えを書こうとする姿が見られた。
- 単元を貫く学習問題が、誰にとって大切なものなのかが明確になっていなかったため、あまり子どもの考えに深まりが見られなかった。本時では、生産者や消費者の立場を明確にしたうえで、話し合うことができるようにする必要があった。
- ふりかえりの視点が明確になっていなかった。単元をとおしてどのような社会的な見方・考え方や学習方法を身に付けさせたいのかを明確にする必要があった。本時では、ふりかえりの視点として、「根拠を明確にすることができたか」や「話し合い活動をしてどうだったか」とその理由を考えさせる必要があった。
- 子どもたちにとって、自動車を購入したり運転したりするという経験がないため、自動車産業を身近なものとして考えるのは難しい。自分事として捉えさせるためにも、生産者や消費者となる大人を登場させ、その人の思いや努力を知ることとおして学習させる必要があったと考える。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）

○ 本時の目標

これからの自動車産業の発展について、環境への配慮や安全性等の観点から考え、学習したこと等を基に根拠や理由を明確にして、自分の考えを表現することができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1 本時の学習の見通しをもつ。 ○ 将来乗りたい車 〈学習したことを基にした考え〉 ・「環境問題があったから、二酸化炭素を出さない車がいいと思う。」 ・「交通事故も多いから、自動で走る車がいいと思うな。」等 〈学習したことを基にしていなない考え〉 ・「形が変形する車がいいんじゃないかな。」 ・「安くて高性能な車がいいよ。」 ・「カッコいい車がいいと思うな。」等 ○ 単元を貫く学習問題 これからの自動車づくりで大切なことは何だろう。 2 これからの自動車づくりで大切なことについて根拠を明確にして考える。（★） ○ 大切なことと根拠 ・「環境のことを考えた工場や車づくりが行われていたから、環境を汚さない工場や二酸化炭素を出さない車の開発が大切である。」（環境への配慮） ・「自動運転技術の開発が行われていたから、事故を減らすためにこれからも発展してほしい。」（安全性） ・「自動車工場では、働く人ができるだけ楽をしたり正確性を高めたりしていたから、今後も新しいロボットや技術の開発が大切である。」（生産者の負担軽減）等 3 これからの自動車づくりで特に大切なことについて話し合う。 ○ グループでの話し合い (グループの考えの例) 安全性 利便性 環境への配慮 環境への配慮 利便性 生産者の負担軽減 安全性 ○ 全体での話し合い ・「私たちのグループでは、環境への配慮が一番大切だと考えました。理由は、大きな問題になっているし、自動車をつくる人たちも環境について考えていたからです。」等 4 本時の学習をまとめ、ふりかえる。（★） ○ 本時のまとめ これからの自動車づくりで大切なことは、社会の変化や消費者の願いに合わせて、環境や乗る人に優しい自動車をつくることである。 ○ ふりかえりの視点 ・ 将来どのような車に乗りたいか。 ・ 単元のはじめの考えと比べて変わったか。	○ 「将来どのような車に乗りたいか。」と問い、考えたことを自由に発言させることで、乗りたいと思う自動車には多様な考え方があることに気付くことができるようにする。 ○ 学習したことを基にした考えと、基にしていなない考えを分けて板書し、どれが大切かを問うことで、根拠をもって発言することのよさに気付くことができるようにする。 ○ 多様な考え方をさせようとして、単元を貫く学習問題を提示し、根拠を明確にして考えるという本時の学習の見通しをもつことができるようにする。 ○ 個人で考える時間を設定し、自動車産業に関する本や既習事項の資料等を前時までに配付したり教室に掲示したりすることで、自ら必要な資料を集め、根拠を明確にして考えることができるようにする。 ○ 個人で考えたことを基に、グループで特に大切なことについて話し合わせることで、これからの自動車づくりで大切なことについての考えを広げることができるようにする。 ○ 各グループの考えを社会の変化や消費者の願い等に整理して板書し、どれが大切かを問うことで、これからは環境や乗る人のことを考えた自動車づくりが大切だと気付くことができるようにする。 ○ 「3」を基に、将来どのような車に乗りたいかとその理由を考えさせることで、学習したことを自分たちの生活と結び付けて考えることができるようにする。 ○ 将来どのような車に乗りたいかを単元のはじめの考えと比較させ、変化等の理由を考えさせることで、獲得した学び方のよさに気付く、次の学習にも生かしたいという思いをもつことができるようにする。

○ 本時の評価規準

これからの自動車産業の発展について、環境への配慮や安全性等の観点から考え、学習したこと等を基に根拠や理由を明確にして、自分の考えを表現しようとしている。
(思考・判断・表現②)【発言分析・記述分析】